実践交流
小学国語
―全学年―

「言葉の力」
～学び方を学ぶ～

奈良市立都跡小学校　植島　佳子

一　はじめに

この授業でめざす子どもの姿はどんなものか。子どもにどんな力をつけたいのか。そのために、どの教材を使って、どのような活動を取り入れながら授業を進めようか。試行錯誤しながら授業を組み立てる。

そんな国語教室の中で、特に私が心がけていることは、次の三つである。

・言葉に敏感な子どもを育てる
・子どもがお客にならない、居場所がある
・同じ領域（「読む」領域、例えば文学的文章の読解等）の単元では、同じ学び方ではなく、さまざまな学び方を習得させる

二　言葉の学びの場としての国語教室

まず、言葉に敏感な子どもを育てるためには、国語教室を「言葉の学びの場」ととらえて学習することである。私は、「言葉の学びの場」とは、次のようなことかと考えている。

①　教材は、言葉との出会いの場

教科書教材は、どの子にも共通にある言葉との出会いの場、多くの言葉に出会い、その働きや意味を知る。並行して、読書活動をすすめることで、より語彙が豊かになる。

②　言葉の技能を身につける

文が書ける、お話が読める、話ができるようになった…という実感をもたせる。できるようになったという積み重ねが、国語好きを育て、教室に自分の居場所を見つけるようになる。

③　表現について考える

「大事にしたい言葉」「使いたい言葉」「覚えておきたい言葉」など、言葉に主体的に関わり、表現を学ぶ。

④　自分の言葉で表現する

・「たとえば」や「つまり」が使える
・「なぜ・どうして」から「それで」へかえる
・「言いかえると」「まとめると」「要約すると」

三　学び方を学ぶ
文章を「読む」領域から

文学教材はどの学年でも扱われていて、子どもたちも大好きである。お話として聞くのは好きだが、何時間もかけて、「心情は、情景は」と、くどくなると、かえって国語嫌いをつくってしまうことになる。ましていつも同じような授業だとなおさらである。

最終的には、読みは個人の自由である。同じ作品でも、年齢や環境によって読みはかわってくる。しかし、子どもたちには、発達

段階に応じて国語的な読み方を多様に学ばせ、最終的には、読みの方法を自分で選択し、自分なりの読みができる力をつけることが大切である。そのために、教材ごとに読みの方法を工夫し、自己の学習成果が評価できるような授業をめざしたい。

（読みの方法例）

① **ワークシートの活用**

・指導者が考えさせたいところに吹き出しをつくる。（キーワードは押さえる）

・子どもが書きたいところに自由に吹き出しをつけて書く。（想像をふくらませて、挿絵を読む）

② **書き込み法**

・全文を与え、気持ちや性格がわかる文や文章を見つけて書き込みをする。または、書き出しをする。

・音読の工夫に視点をあてて、どこを、どのように読めばいいのかを書き込む。（「どのように」は、寂しさが出るように、ささやくように小さな声で。というように）

③ **活動型の読み**

音読（朗読）発表会・劇化・影絵・紙芝居等、最終的に発表会等を設定して活動を進めながら読みを深めていく。読み取ったことが効果的に表現できるように、読解を深めるのが目的である。

④ **比べて読む**

同じ作者の作品を比べる。

（例）新美南吉作「ごんぎつね」と「手ぶくろを買いに」

宮沢賢治の数点の作品を通して生き方に迫る。

登場人物・構成・情景・主題等に視点をあてての比べ読み

⑤ **見通しをもった授業**

授業の計画を子どもに示し、見通しを持って授業にあたる。今この時間の授業は、次にどう続くのか、最終は何をめざしているのかを知って学習を進める。そして、自己評価しながら、次の課題を確認して授業をつなげていく。こうした見通しは、学習力を高める上で大切である。

四　おわりに

国語の力を高めるために、基礎・基本を大切にした学習を基盤として、学び方を学ぶ授業を実践する。と同時に、保護者にも学習のねらいを知らせることは、効果的な家庭学習にもつながるものである。次にその一部を紹介する。

（お家の方へ）

教材を学習するのではなく、**教材**で学習するのです。すなわち、書いてあることの内容理解だけで終わってはいけないのです。教材を通して、いろいろな学び方（読み方）を学び、最終的には自分の力で読めるようになることが大切なのです。ですからこれからの一年、いろいろな読み方を知ってもらおうと思っています。今回は、「音読の工夫を中心にして…」の学習方法です。音読は、読解を深めるためのものです。音読を工夫しながら、様子を想像したり、登場人物の気持ちを考えたりして豊かな読みにつなげていきます。

現在の国語では、「読書」と「読解」は並行して重視されています。また、内容把握だけではなく、すぐれた表現を自分の表現に活かすような読みも同じように大切だとされています。

四年生ですが、そういうことを意識しながら少しずつ進めていきたいと思います。学習の見通しを持って学習を進めることで、主体的に学ぶ力が育ってくれたらいいなと思っています。

うえじま　けいこ　奈良市立都跡小学校教頭。元奈良県国語教育研究会研究員。